



128

洲寒之候

愈亦健勝別在より

所歸京為國家

京下賀名

述とく生の義の舊の獵より

相州鶴沼へ避寒今月

十九日歸京諸暖地

より歸來俄々都門之

泊寒之遭遇せしあり

の過る廿三日より腸

加苦見え一時お悩

最早快癒より其志

多...

海寒之連遇せしめ

の過るる廿三日より腸

加苦見ん一時お惱

最早快癒るは未

醫自より外出を許されす

歳末年始とも心外

失禮の所在お行即從

身より速急各々の健直

之又お返し事情より

修々近引お端侍り

不遠中昇望之振

得お顔我國現下及

將來對支那方針

且より施為を就

所高況お神仕度所

解りて禮を重ねる付

中歸系後之所因方持

寸緒を餘に譲お

青の時也

頓首拜

得也願我國現下及  
將來對支那方針  
且予之施為之  
所高視也神任之所  
解之其神を重ぬる付  
中歸系後之所因も持  
才緒之餘、海を  
青之時也  
頓首拜

一月廿九日

直林

大隈仁先生

研  
北